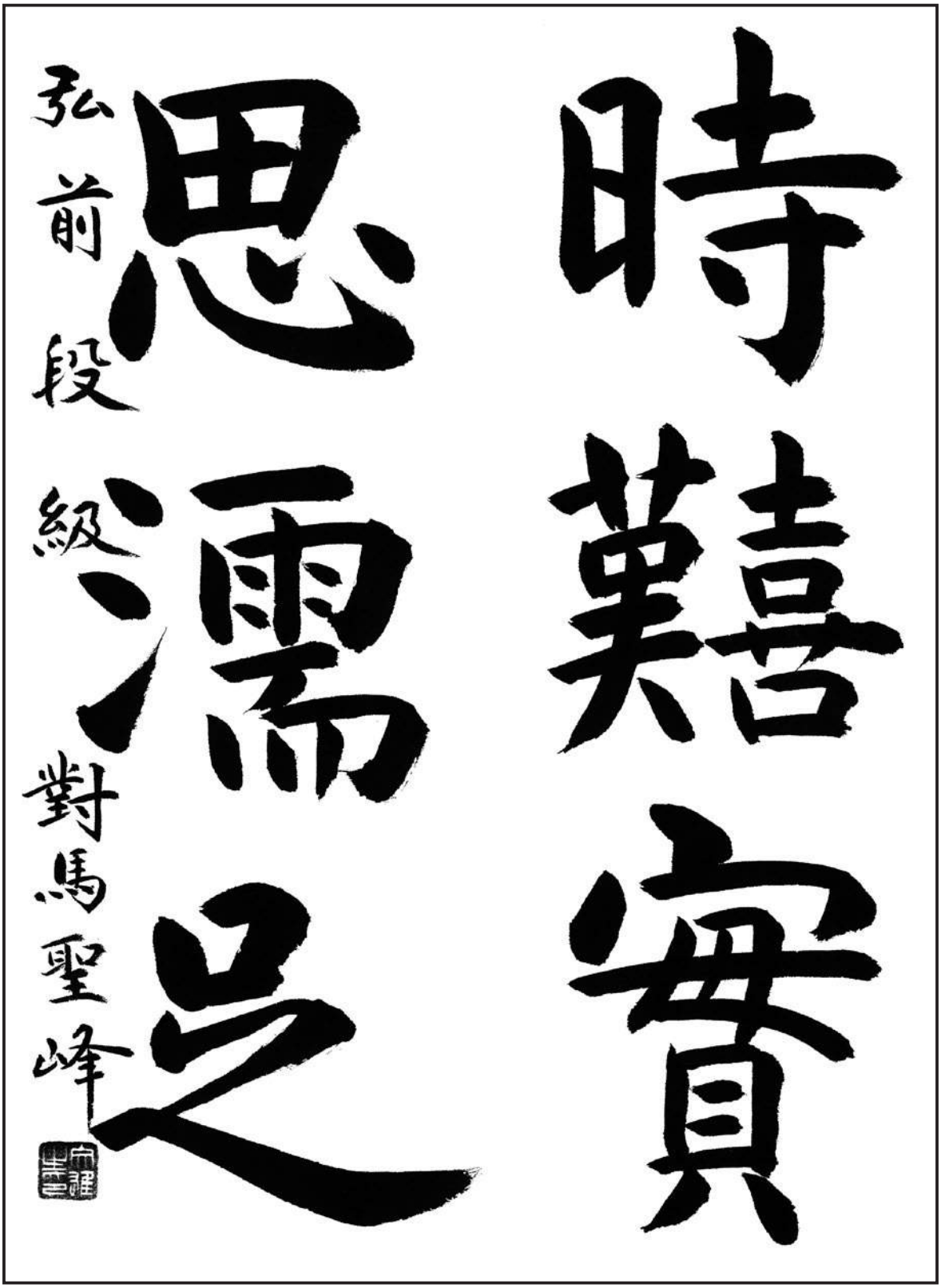
4月号　　楷書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

孔子廟堂碑（虞世南）

〔時〕 **日**は幅せまく、横画の方向に注意する。旁は横画の長さに注意し、9画目は内に絞ってはねる。点の位置に留意。偏と旁の上部、下部ともほぼ揃える。偏の上部筆順に注意（骨法参照）。旁は横の間隔を等しく、筆先で丁寧に運筆する。

〔蘗〕 1画目は中心より左に強く打つ。**罒**は横画を長くして横広にまとめる。**貝**は小さめに。

〔實〕 **田**と**心**の位置に留意し、**心**は横広にし安定させる。**心**の始筆の位置に注意。

〔思〕 **冫**は位置に留意し、下部をあける。偏と旁の間を広く。旁は上下のバランスに留意し、下にいくに従って右寄りに。

〔濡〕 中心に気を配り、**口**は重厚に、1・2画目を接しない。最終画は三折法でのびやかに。

〔足〕

原帖

〔時蘗實思濡足〕時蘗（じかん）を（歎き）、実（まこと）に濡足（だそく）を思う。

4月号　行書臨書課題（漢字半紙部）　古川暁洲臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・松）・使用墨（黒耀）

行書臨書課題解説

蘭亭叙（王羲之）

原帖

〔永和九年歳在〕永和九年、歳は（癸丑に）在り。

蘭亭叙について

東晋時代、王羲之の行書帖。穆帝の永和９年（３５３）３月３日、会稽山陰の蘭亭において、当時の名士、41人が宴集して、修禊を行い、曲水に觴を流して、詩酒の楽しみに興じた。そのとき成った詩を集めて、王羲之が序をしたためてその感慨を述べたのが「蘭亭叙」である。

唐太宗が王羲之を崇拝し、特に「蘭亭叙」を終生これを座右に愛玩し、帝が崩ずるに及んで、これを昭陵に殉葬させたのは有名な話である。

〔永〕 １画目点の大きさ、方向に注意し、２画目はまっすぐ下に引き、中央部分は少し細くなっている。

〔和〕 ２画目は思い切って左に長く、偏から旁への筆の動きをよく見て、**口**は位置に留意。

〔九〕 左はらいは大きく弧を描き、ゆったりと。２画目は動きを大きく終筆は内側にはねる。

〔年〕 ５画目の横画を強調し、縦画は中心より右へ寄せる。下部の左側と右側の開き具合いがバランスをとるポイントとなる。

〔歳〕 ２画目は長く終筆はとめる。**土**の位置に注意。

〔在〕

4月号　　隷書臨書課題（漢字半紙部）　　奈良岱奉臨

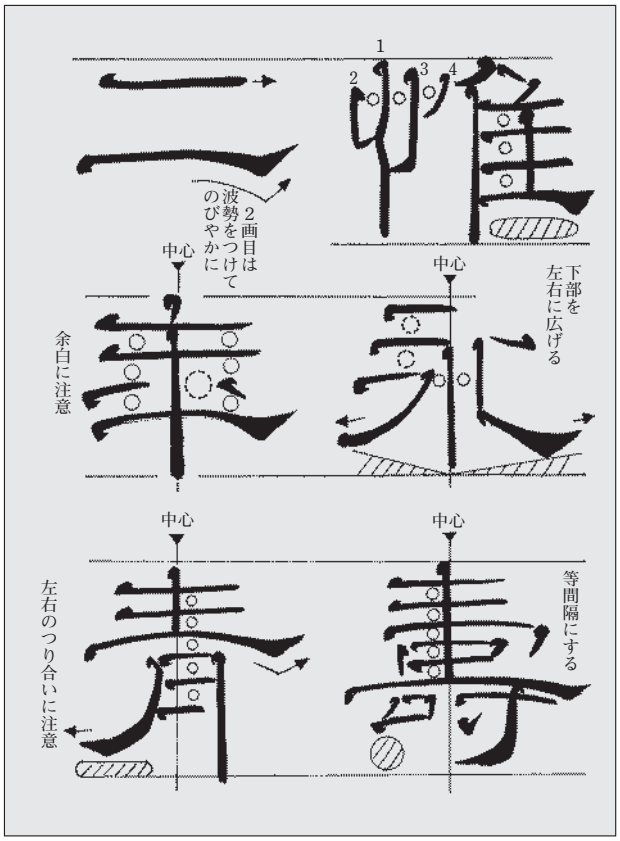
※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（旭水）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

隷書臨書課題解説

礼器碑



礼器碑について

礼器碑は、後漢の恒帝・永寿二年（156年）に刻された。魯国の丞相、韓勅が孔子廟を修復し、祭祀用の器具を整えた…等の高徳を後世に伝えようと建立されたものである。

本碑は、山東省曲阜の孔子廟内に現存している。165×74㎝の四面碑で表面（碑陽）は16行、行36字、文末に韓勅等9人の名がある。裏面（碑陰）、左右の側面（碑側）ともに刻されている。

曲型的な八分書体で筆法、結体など最も正統派的な碑として高く評価されている。

〔惟〕 偏は篆書形となっていて、筆順に注意する（骨法参照）。

〔永〕 左右のはらいは縦画終筆より下がらない。

〔壽〕 画数が多いので、横画の間隔は等しく、狭く書くのがポイント。

〔二〕 1画目は少し長めに引き、波磔をつけない。2画目はのびのびと。

〔年〕 3つの横画を縦画が中央でしっかりと貫く。

〔青〕 長い横画の波磔と**月**の左はらいの下部がつり合ってバランスをとっている。

原帖

〔惟永壽二年青〕惟れ永寿二年、青（龍は）…。

4月号　　中字課題（漢字半紙部）　　中西溪州書

※出品段級位（漢字半紙部 新級～八段）

読み―春は洞庭南壁の岸に到る。

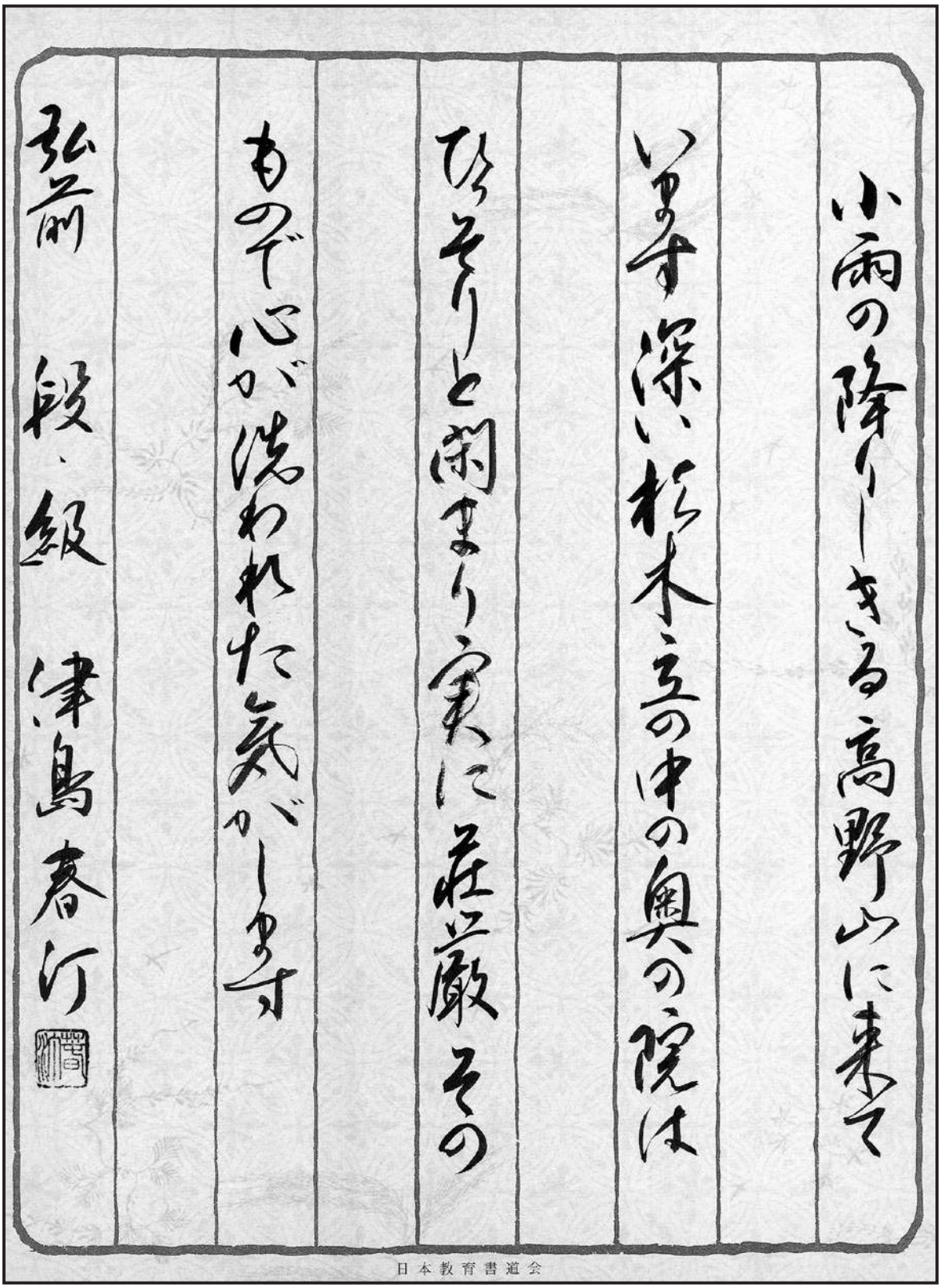
意味―春は中国湖南省にある洞庭湖の南の岸に訪れる。

使用筆（天開）・使用紙（中字用半紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

※弘前の部分には支部名を書く

4月号　調和体（漢字かな交じり文）課題　津島春汀書

※出品段級位（調和体部 新級～八段）



読み―小雨の降りしきる高野山に来て　いま深い杉木立の中の奥の院は　ひっそりと閑まり実に荘厳その　もので心が洗われた気がします

※弘前の部分には支部名を書く（◎印墨つぎ）

◎19頁に部分解説があります。

使用筆（からまつ）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

漢字条幅漢詩課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

手本をみて習う時「自分は同じに書いたつもりなのに大きくなり過ぎる」という経験をお持ちだと思います。それは、手本が余白を生かしながら巧みな運筆で書かれていることもありますが、その多くは「拡大と集約」という対比の原理があることを見逃しているからだと思います。

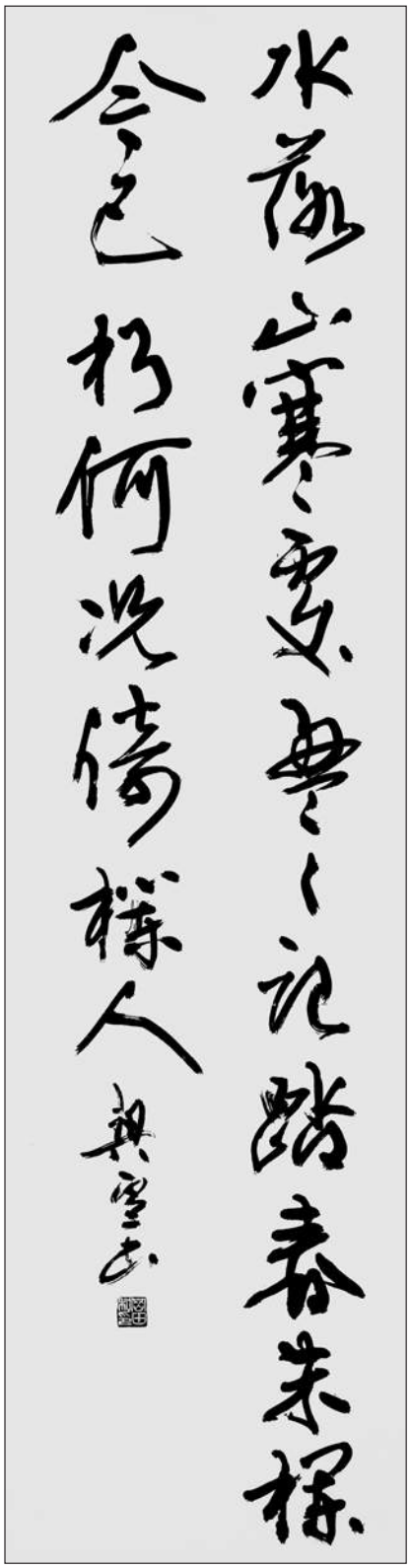
拡大と集約とは、文字の左右・上下の関係を同等にせず、一方を拡大、他方を集約し、その対比によって変化や動きを表現する手法です。一般に集約されたところは密に、拡大されたところは疎になり広がりを感じさせます。また、この手法は文字を大きく見せます。ある一部分正常な形より引き締め（集約）その反対の部分を正常な形より大きく構えますから（拡大）その対比による錯覚で一層大きく見えます。大きい人のそばに小さい人が立っている感じです。この手法は覚えていると手本の見方もより深まりますし、創作にも大変役立ちます。

『作品には行の流れが重要な役割を果たすものですが、端的には筆脈が通じているか否かであります。具体的には連綿の形でしょうが、これは文字の組み合わせで難かしいこともあり、文字の近接ないし、大小の組み合わせで、文字群を考える等、工夫してみて下さい。』

（『　』内は岡田契雪先生より）

使用筆（白神）・使用紙（漢字条幅用紙半切・梅花箋）・使用墨（頂煙翰墨自在〈固型〉）

岡田契雪先生書



半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

〔水落山寒處　盈盈記踏春◎　朱欄今已朽◎　何況倚欄人〕　厲鶚

（◎印は墨つぎ）

読み―水落ち山寒き処、盈々として踏春を記す。朱欄今已に朽つ、何ぞ況んや欄に倚りし人。

意味―寒い山の水の減った処は、春の遊びの記憶がいっぱい。朱い欄干は今は朽ちている、ましてその欄干にもたれた人は。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級～八段）

◆蜀素帖（米芾）

新年度も米芾を続けて学習したいと思います。

今月から初めて条幅臨書に取組む書友がおられるでしょうから、作者の米芾、そして原帖の「蜀素帖」について軽く触れておきます。

米芾〈皇祐3年（1051）～大観元年（1107）〉字は元章、湖北襄陽の人なので襄陽漫仕、鹿門居士と号した。また潤州の北固山に住んで、その居を海嶽庵と称したので、のちに米海嶽ともいう。数年を南方に過ごし崇徳2年（1103）には太常博士となった。また召されて書画学博士に任ぜられ、礼部員外郎に抜擢されたが大観元年（1107）に没した。

蜀素帖は蜀で織られた絹に烏絲欄を施して書かれた詩巻である。五言古詩二首、七言絶句二首、七言律詩二首など全て八首の詩を収めている。末尾に「元祐戊辰九月廿三日溪堂米黻記」とあり元祐3年（1088）米芾38歳の書である。烏絲欄の施されている清良な絹地に縦長の王献之風行書は線が澄みきっていて美しい。（二玄社中国法書ガイドより抜粋）

乙未歳の仕事はじめの1月5日、自身のかきぞめとして本作に向い筆を執りました。すこしかじってきた米芾の書ですが新しい古典の名筆は気が引締まり新鮮な気持ちにさせてくれました。

勁＝

種＝

對馬聖峰臨

〔◎青松勁挺姿　凌霄耻屈盤　◎種々出枝葉〕

（◎印は墨つぎ）

使用筆（神技北斗）・使用紙（漢字条幅用紙半切・華心箋）・使用墨（黒耀〈固型〉）

読み―青松勁挺の姿、凌霄屈盤を恥づ。種々に枝葉を出だし、

意味―青い松が強くのびきった姿、空を凌いでいる、わだかまるのを恥じるように。さまざまに枝や葉を出し、

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

注　意

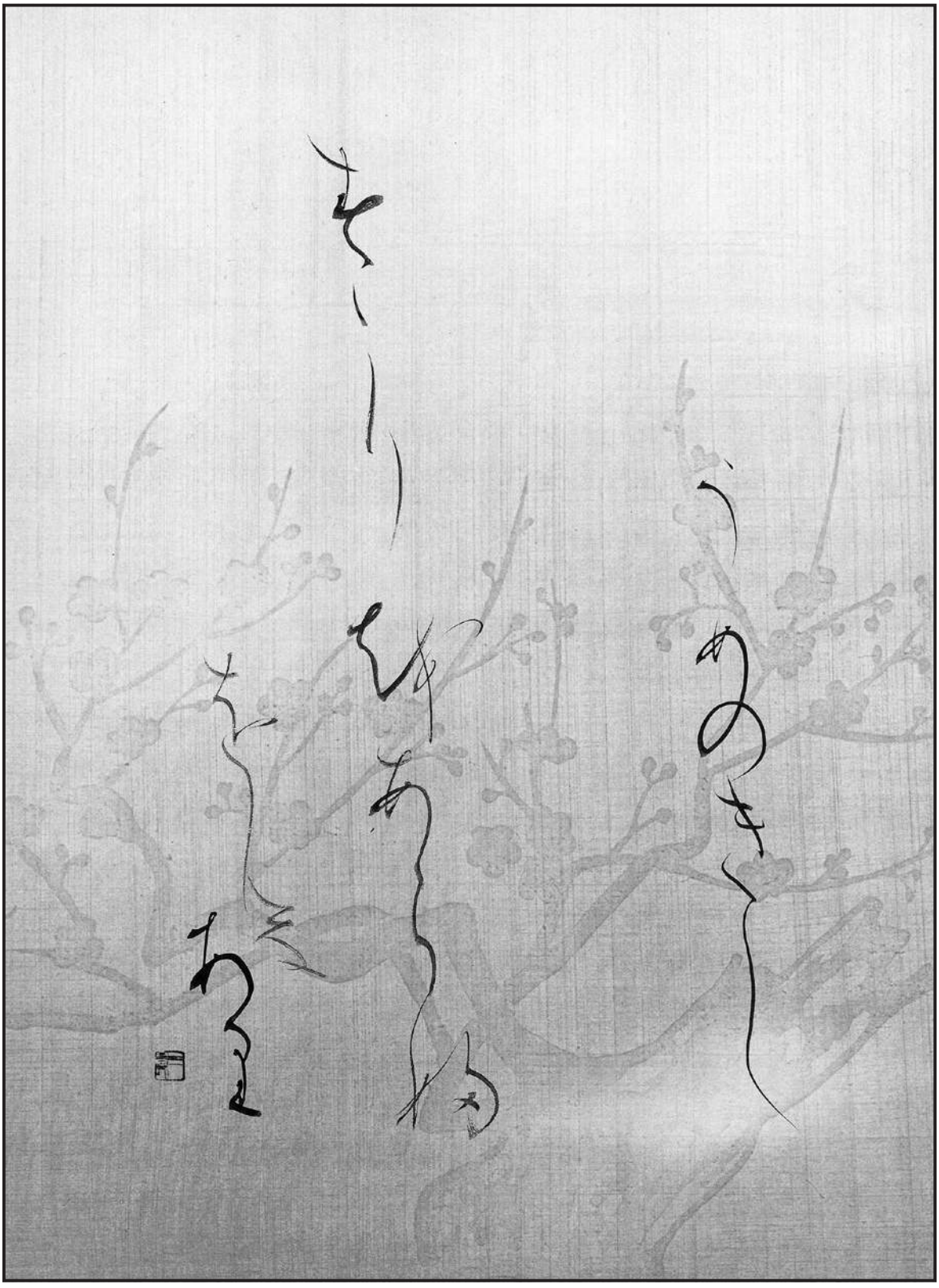
漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。

支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

4月号　　かな課題(かな半紙部)　　湯川三壽先生書

《 俳 句 課 題 》　　※出品段級位（かな半紙部 新級～八段）

◎うめのきし春ゝり越あら婦を无なあ里◎（◎は墨つぎ）



読み―梅の岸硯を洗ふ女あり（内藤鳴雪）

意味―梅の咲く岸辺で硯を洗う女の姿。花の匂い、水の匂い、墨の匂いとが重なって清らかな品位をこの女性に与えている。

注意→支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

使用筆（南風）・使用紙（かな用料紙）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

※19ページ（下段）に解説があります。

かな条幅課題

かな条幅部
※出品段級位（新級～八段）

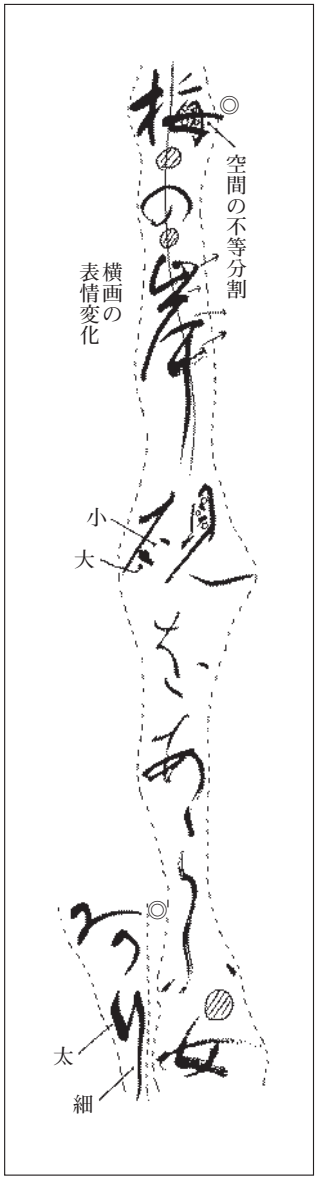
湯川三壽（ゆかわさんじゅ）先生

日展会友・読売書法会理事・謙慎書道会理事・書道笹波会総務理事・NHK学園書道展審査員・筑波大学芸術専門学群書専攻卒・麗花会主宰

私がかな書道を志しましたのは、高校時代蓑輪東壽先生の書に魅せられ入門したことに始まります。その後桑田三舟先生に入門、お二人の先生より、高野切、関戸、香紙切、小島切、一条摂政集等を学び、創作法、表現法をご教示いただきました。現在は、田頭一舟先生に師事し、寸松庵色紙、継色紙等古筆の勉強を進めています。自己の感性表現である作品創りと、日本人の英知が生み出した美しいかな書道を次世代へ伝える活動をライフワークにしていきたく思っています。

『リズムに乗って放ち書きで書き出し、字間を変化させましょう。行も直立しないように、「の」で左、「岸」で右へ動きを出し、「硯」で幅を出して横空間への文字の響きを表現しましょう。一行の中に潤渇変化を出し、「阿り」で中心右移動を心掛けましょう。』

（『　』内は湯川三壽先生より）



使用筆（雅）・使用紙（かな条幅用紙半切・桂風）・使用墨（天衣無縫〈固型〉）

湯川三壽先生書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

（◎印は墨つぎ）

◎〔梅の岸硯をあらふ女阿り〕◎

読み―梅の岸硯を洗ふ女あり（内藤鳴雪）

意味―梅の咲く岸辺で硯を洗う女の姿。花の匂い、水の匂い、墨の匂いとが重なって清らかな品位をこの女性に与えている。

注　意

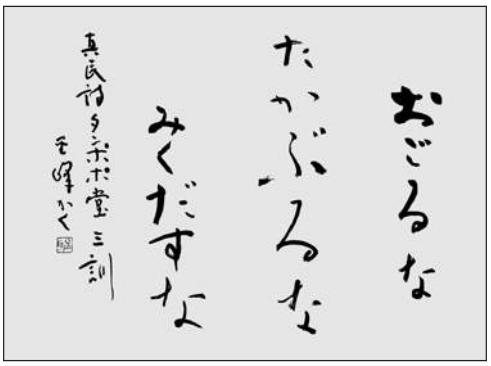
かな半紙部門と段級位は異なりますのでかな条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

書作品を書こう

〝書作品を書こう〟のコーナーは2年目を迎えました。

昨年と同じように4月号は一番手短な半紙に取組むことにします。しかもなるべく書きやすくて、このぐらいなら簡単に書けそうと思ってもらえるような課題を選びました。そうは言っても課題の選定はとても大事で、見栄えがして、しかも部屋に飾った時、自身の思いと合致する意味（内容）のものであればベストでしょう。

安寧（あんねい）
安らかなこと。無事なこと。



おごるな　たかぶるな　みくだすな
坂村真民詩 タンポポ堂三訓

ひらがなだけの詩なので、やや寂しい作品になった感。墨の潤渇、文字の大小、タテ長ヨコ広を考慮しながら書いてみました。本文の三行は行間に差をつけ、そして最後の3行目と落款は少し近づけて一体感を持たせました。

作品は「宋四家字典」の中から蘇軾（注）を参考に創りました。激しい字形の変化もなく、どちらかというと中正温雅な安定した形が、**安寧**の語句にピッタリきました。

安は太めで小さく、横広の形にしました。**寧**は逆に縦長で大きく作り引き立たせる意識で書くとよいでしょう。

（注）字は子瞻、号の東坡居士をもって蘇東坡と通称される。中国でもっともすぐれた文学者の一人として知られる。

12月号応募優秀作品

谷地　敬川

○丁寧に、そしてじっくり書かれていて好感が持てる。潤渇を明確に表現すること、また落款が小さかったことは残念。

出品者　金澤　羅胡・手嶋　瑞光

応募規定

1. 締切　**5月10日**（4月号例月作品に同送可。その場合、別封筒に入れて「書作品を書こう」と書いて同送のこと。）
2. 発表　27年8月号
3. 規定用紙　**半紙サイズ**
4. 優秀作品1点だけ紙上にて発表（批評コメントつき）その他は姓号のみ発表
5. 段級位に関係なく誰でも出品可
6. 返送不可

※出品は掲載している作品と同じものを書いてもよい。また、当月規定用紙であれば自由作品可。

※出品段級位（ペン部 新級～八段）

4月号　ペン楷書課題（ペン部）　奈良岱奉書

勤勉は
幸福の母である
そして神は
勤勉にすべての
ものを与える
ベンジャミン・フランクリン

支部名
学年
段級位
（初めての人は新と書く）
氏名

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております　定価162円

（ボールペン0.7・硬筆用紙6行使用）

※出品段級位（ペン部 新級～八段）

4月号　ペン手紙課題（ペン部）　奈良岱奉書

小雨の降りしきる高野山に来て　います深い杉木立の中の奥の院は
ひっそりと閑まり実に荘厳そのもの　で心が洗われた気がします

（美文字筆ペン細字・硬筆用紙8行使用）

支部名

段級位
初めての人は新と書く

氏　名

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価270円